

編集後記

青木孝夫

広島芸術学会も十六年を迎え、年報「藝術研究」も第十五号を行するに至りました。今号には、論文を二本、研究ノートを四本、計七本の論考を所収することができました。

昨年の編集後記に「研究ノート」に関連し、次のように書きました。

広島芸術学会は研究者や作家のみならず広く市民に開かれています。大学に属する研究者の問題関心とは異なる市井の研究が、また、いわゆる芸術学の枠をはみ出る問題領域に却って斬新なアプローチが埋もれているかもしれません。それらを掘り起こし、知的興味や問題意識を共有したいものです。窮屈な体裁に傾きがちな学問的知性の弊害を免れた在野の知もまた貴重です。知的好奇心の新鮮さを保った論考や、また長年の知的愛好が醗酵したエッセイなどを募集します。投稿者は、当会の会員であればどなたでも結構です。研究者やその卵の方の魅力に富むデッサンとしての研究ノートも歓迎します。

この趣旨に従い新設した研究ノートの枠に意欲的な論考が四本も

寄せられたことに感謝します。ことに児童文学の作家であり、また同時に在野の研究者でもある三浦氏が論考を寄せられたことは、本誌新設の趣旨に相応しいものでしょう。

今後、当年報は、会員の諸氏の知的な息吹の受け皿として研究論文や書評と並び「研究ノート」の枠を備え、一層の充実が期待されます。ご投稿、お待ちしております。

(あおき・たかお 広島大学)

藝術研究

第十五号

頒価一五〇〇円

平成十四年七月十日 印刷
平成十四年七月十一日 発行

編集 広島芸術学会

〒739-8521 東広島市鏡山一―七―一
広島大学総合科学部比較文化研究会気付
TEL 〇八二四―二四―六三三〇

印刷 (株)ぱりかプロモーション

〒733-0013 広島市西区横川新町一五―八
TEL 〇八二―九三―七三四四